

下田は下田のままでいい！

下田市立下田小学校 六年 原維吹

ぼくは、未来の下田には今の下田のままでいてほしいと思います。理由は、下田はスーパー、コンビニ、マック、すき家だっりの飲食店はもちろん、病院や電車、さらにはグラウンドなど、生活に不便になるということは、あまりないからです。もっといえば、大きなショッピングモールだったり、流行りの食べ物などは電車や車で都会に行ったら食べられるからです。しかも電車は、下田から東京まで、約二時間半で行けます。車も最近できた稲づきから河津を結ぶ道路ができ、より都会に行きやすくなりました。

そんな下田でもぼくが少し思ったのが、下田の町中のシャッターのしまった店、町を歩いている人たちがあまりいないということです。

ぼくはそこである工夫を思いつきました。それは、シャッターがしまっているところが多い通りを週一回歩行者天国にして、建物のあるところに下田の地元のもの売ったり、下田で商売している人たちが出張販売をして、その静かだった通りをにぎやかにすることです。そうすることで、人出も多くなり、ぼくが思っていた二つの問題が一気に解決できるとぼくは思います。そしたらそこで買った食べ物を食べて地産地消ができたり、地域の経済もよくまわるのではと思い、このような考えを思いつきました。

そんな少しの工夫をしながらも、実は下田市は今でも完成形に近い＝恵まれている市だと思います。なぜなら、下田の人の温かさや自然、海の幸など世界にほこれるところだと思うとともに、これから数十年先も、同じように持続的に「下田にしかないみ力」を、一番大切にするものだと思います。

それが下田が大好きなぼくの「未来の下田」についての答えです。